

デ イ ベ ー ト を し よ う

○単元の目標

- ・物事を多様な視点から考えられる。
- ・複雑な内容を相手にわかりやすく伝えられる。
- ・相手の説明を聞いて論理的に批判できる。

○学習後の感想、疑問点の解消、新しく知ったことやできるようになったことを箇条書きで三つ以上書こう。(月 日)

○目標達成度

物事を多様な視点から考えられた。

できた(3 ・ 2 ・ 1)できなかった

・複雑な内容を相手にわかりやすく伝えられた。

できた(3 ・ 2 ・ 1)できなかった

・相手の説明を聞いて論理的に批判できた。

できた(3 ・ 2 ・ 1)できなかった

デ イ ベ ー ト を し よ う ニ

セルフディベート審査用紙（40分）

| | |
|-----------------------|-------|
| 論題 動物園や水族館は存在し続けるべきか。 | |
| 賛成（A） | 検討（B） |
| 理由① | |
| 理由② | |
| 理由③ | |
| 検討（D） | 反対（C） |
| | 理由① |
| | 理由② |
| | 理由③ |
| 結論 | |

セルフディベートの振り返り

感想、新しく知ったこと、できるようになったこと、新しい疑問点を箇条書きで
三つ以上書こう。（ 月 日）

ディベートの実際

これからディベートの音声を流します。テーマは「うどんとラーメン。日本の代表的な国民食はどちら？」です。あなたは審判として、どちらの勝ちだと思いますか。以下、メモに使ってください。

① うどん側の立論

② ラーメン側の質問

③ うどん側の回答

④ ラーメン側の立論

⑤ うどん側の質問

⑥ ラーメン側の回答

⑦ ラーメン側の反駁

⑧ うどん側の反駁

⑨ うどん側の最終弁論

⑩ ラーメン側の最終弁論

ジャッジ

| 評価項目 | | うどん側 | | | ラーメン側 | | |
|-----------|----------------|------|---|---|-------|---|---|
| 最終弁論 | ① 論理的か | 5 | 3 | 1 | 5 | 3 | 1 |
| | ② 論拠は明確か | 5 | 3 | 1 | 5 | 3 | 1 |
| | ③ 表情や言葉遣いは適切か | 5 | 3 | 1 | 5 | 3 | 1 |
| データ | ① 内容は適切か | 5 | 3 | 1 | 5 | 3 | 1 |
| | ② 分析は十分か | 5 | 3 | 1 | 5 | 3 | 1 |
| | ③ うまく活用できたか | 5 | 3 | 1 | 5 | 3 | 1 |
| 態度 | ① メンバーは協力していたか | 5 | 3 | 1 | 5 | 3 | 1 |
| | ② 積極的に交換が持てたか | 5 | 3 | 1 | 5 | 3 | 1 |
| 勝敗決定のポイント | | | | | | | |

今回のディベートの勝者は（

）です。

ディベート①の振り返り

感想、新しく知ったこと、できるようになったこと、新しい疑問点を箇条書きで三つ以上書こう。（ 月 日）

以下のディベートを読み、あなたならどのようにジャッジしますか。テーマは「電車やバスの優先座席は必要不可欠であると考えます。」

① 肯定側の立論
第一に、優先座席は身体的に支援を必要とする方々が安心して公共交通機関を利用するために重要です。高齢者、妊娠中の方、怪我をしている方、乳幼児連れの方など、立ち続けることが困難な方々にとって、座席の確保は移動の質を大きく左右します。優先座席は、座席が必要な方が他の乗客に気兼ねなく座れる空間を提供することができるのです。

第二に、優先座席は社会的な配慮と共生の意識を育む役割を果たします。特定の座席を優先指定することで、健全な利用者が弱者を思いやる心を自然と持つよう促し、公共の場におけるエチケットやマナーを向上させる効果があります。

そして第三に、優先座席があることで、車内の雰囲気全体に落ち着き、居心地の良い空間が生まれます。人々が互いを思いやる姿勢が見えることで、ストレスが軽減され、快適な移動に繋がるのです。

② 反対側の質問

反対側です。肯定側にお伺いします。先ほど「優先座席は、座席が必要な方が他の乗客に気兼ねなく座れる空間を提供する」と仰いましたが、そもそも、その「気兼ねなく座れる」という効果が具体的にどのようなデータに基づいて裏付けられているのでしょうか？ 個人の主観ではないかと感じます。

③ 肯定側の回答

「質問ありがとうございます。『気兼ねなく座れる』という点については、具体的なデータとして提示することは難しいかもしれませんが。」

（反対側「じゃあ駄目じゃないですか！ データが全てです！」）

しかし、これは利用者の心理的な側面を考慮したものです。例えば、見た目では分かりにくい内部疾患をお持ちの方や、初期の妊婦さんなど、ご自身の状況を周囲に説明することなく、安心して座れる場所があることの重要性は、多くの利用者が感じていることだと認識しています。データとして示すことは難しいですが、公共空間における心理的な障壁を減らすという点で、優先座席は大きな意味を持つと考えています。

④ 反対側の立論

反対側です。私たちは、電車やバスの優先座席は不要であると主張します。

第一に、優先座席は差別を生む可能性があります。特定の乗客を「優先されるべき存在」と位置づけることで、かえって分断を招く」と仰いましたが、あなたは優先座席があることによって優先座席がある電車に乗ったら、そこに座っている人を差別するのですか？

⑤ 肯定側の質問

肯定側です。反対側にお伺いします。先ほど「特定の乗客を『優先されるべき存在』と位置づけることで、かえって分断を招く」と仰いましたが、あなたは優先座席があることで、健康な乗客との間に無意識の線引きを作り出し、かえって分断を招くことがあります。本来、公共の場では誰もが平等であるべきです。

第二に、優先座席は実際には十分に機能していないことが多々あります。優先されるべき人がいても、健康者が座り続けているケースや、逆に優先されるべき人が遠慮して座れないケースも見受けられます。形骸化している制度は、設置する意味が薄いと言わざるを得ません。

そして第三に、優先座席があることで、必要以上に「譲るべきかどうか」というプレッシャーを生み出し、乗客間の不必要な緊張感を高めています。本来に必要としている人がいれば、優先座席の有無にかかわらず、自然と席を譲るのが人としての当然の行いです。むしろ、優先座席があることで「優先座席以外は譲らなくていい」という誤った認識を与えている可能性すらあります。

⑥ 反対側の回答

個人的な質問だと思いますが、あえて答えると、私は差別することはありません。とはいえ、そもそもこちら側が主張しているのは、個人がどう思うかではなく、社会全体でそういった風潮につながる恐れがあるのではないかという可能性の話です。

⑦ 反対側の反駁

反対側です。肯定側の立論に対する反駁です。

まず、肯定側が「社会的な配慮と共生の意識を育む」と主張しましたが、それは本質的な解決ではありません。優先座席がなくても、社会全体で他者への配慮が自然にできるような倫理観や教育こそが重要であり、単に座席を設けるだけでそれが育まれるとは限りません。むしろ、優先座席があるから「わざわざ譲ってあげた」という上から目線の意識を生む可能性すらあります。

それから、肯定側は「車内の雰囲気が落ち着く」などと仰っていましたが、本当にそんなことで車内の雰囲気が変わると思いますか！？ そんなフワフワした主観で議論するのはやめていただきたい！ ほとんどの人は、優先座席があるうがなからうが、自分の座る位置なんて気にしていませんよ！

そして何より、優先座席があることで、必要としている人がかえって遠慮して座れないというジレンマが生まれていることを、なぜ肯定側は無視するのでしょうか？

⑧ 肯定側の反駁

肯定側です。反対側の主張に反駁します。

まず、反対側が「優先座席は差別を生む可能性がある」と主張しましたが、これは誤解です。優先座席は差別ではなく、むしろ配慮の具体化です。すべての人に全く同じ環境を提供することが「平等」なのではなく、異なるニーズを持つ人々に、そのニーズに応じた配慮をすることが真の平等です。例えば、バリアフリー設備が差別だと言えるでしょうか？ それは違います。

次に、「実際には十分に機能していない」という主張ですが、これは制度自体の問題ではなく、一部の利用者のマナーの問題です。優先座席があることで、多くの人が意識して席を譲っている事実を無視すべきではありません。機能していないケースがあるからといって、制度そのものを否定するのは極論です。

また、「不必要なプレッシャーを生み出す」という意見ですが、席を譲るという行為は、本来ポジティブな行動であり、それをプレッシャーと感じる方がいるとすれば、それは社会全体の配慮がまだ不足している証拠です。優先座席は、その不足を補うための重要なきっかけとなり得ます。

⑨ 肯定側の最終弁論

肯定側です。

反対側は、優先座席が「機能していない」と仰いましたが、それならば、例えば駅のホームで白線から内側に入るよう促す表示やアナウンスも、従わない人がいるから不要だとおっしゃるのでしょうか？ 優先座席が完璧に機能していないとしても、その存在が公共空間における意識を喚起する役割を果たしています。

また、先ほど「倫理観や教育こそが重要」と仰いましたが、優先座席は、まさにその倫理観を具体的に示すための「きっかけ」となるものです。漠然と「席を譲りましょう」と言うだけでは不十分で、具体的な対象を定めることで、より明確に配慮を促す効果があるのです。

⑩ 否定側の最終弁論

反対側です。

肯定側は、優先座席をバリアフリー設備と同列に語りましたが、それは全くのナンセンスです。バリアフリーは物理的な障壁を取り除くためのものであり、万人が利用できるものです。しかし、優先座席は特定の誰かのために「空けておく」ことを強いるものであり、その点で根本的に異なります。

そして、肯定側は「一部のマナーの問題」と責任転嫁しましたが、実際には優先座席の存在自体が、譲る側・譲られる側の双方に心理的な負担を与えているのです。本場に助けが必要な人がいれば、優先座席があるうがなからうと、人々は自発的に行動するはずですが。

私たちは、優先座席のような「強制的な配慮」ではなく、自然で温かい「自発的な思いやり」が溢れる社会を目指すべきであり、そのために優先座席は不要であると強く主張します。

ジャッジ

| 評価項目 | うん側 | ラーメン側 |
|----------------|-------|-------|
| ① 論理的か | 5 3 1 | 5 3 1 |
| ② 論拠は明確か | 5 3 1 | 5 3 1 |
| ③ 表情や言葉遣いは適切か | 5 3 1 | 5 3 1 |
| ① 内容は適切か | 5 3 1 | 5 3 1 |
| ② 分析は十分か | 5 3 1 | 5 3 1 |
| ③ うまく活用できたか | 5 3 1 | 5 3 1 |
| ① メンバーは協力していたか | 5 3 1 | 5 3 1 |
| ② 積極的に交換が持てたか | 5 3 1 | 5 3 1 |
| 勝敗決定のポイント | | |

今回のディベートの勝者は）

）です。

ディベート②の振り返り

感想、新しく知ったこと、できるようになったこと、新しい疑問点を箇条書きで三つ以上書こう。（ 月 日）

テーマ「安楽死を認めるべきか」

৭

| | | | | | | | |
|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|
| | | | 検討 | 理由③ | 理由② | 理由① | 賛成 |
| 理由③ | 理由② | 理由① | 反対 | | | | 検討 |

（ ）班（ ）側

①グループで意見をまとめて、立論を作ろう。（理由は2つ）10分

②相手側がここに質問をひとつ書きます。8分

③質問に答えよう。7分

④相手側に反駁しよう。10分

⑤相手の反駁に反論しよう。10分

⑥生成AI（Gemin）のジャンジ。

ディベート③の振り返り

感想、新しく知ったこと、できるようになったこと、新しい疑問点を箇条書きで三つ以上書こう。（ ）月（ ）日（ ）